



学校評価 Part 2 (教職員自己評価から)

本校教職員による自己評価の結果と今後への見通しや対策等についてもお知らせいたします。今後も教職員一丸となって適切な指導に努めますが、お気づきの点やご要望等については、随時お寄せいただきたいと思います。□の部分を中心に、それぞれの項目についての対策と改善を早急に図り、3学期、そして新年度の教育改善・学校運営へつなげられるよう取組を進めます。

令和2年度学校評価 2学期反省 <教職員アンケート> 集計

		A	B	C	D	備考
A 確かな学力	① 授業					○全体的に「学習規律」「授業改善」「大槌型授業スタイル」等の実践については取り組むことができた。 ○●「学び合い」についてはペア学習、話し合いは十分ではなかったが、活動スタイルに工夫を加えて実施できた。 より深めることができる方法を模索したい。 ●令和3年度から評価の観点が変更になるので、授業改善に努めたい。
	1 「学習のきまり」の指導に十分に取組んだ。	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	
	2 生徒一人一人が思考・判断し、表現する授業改善に取り組んだ。	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%	
	3 大槌町授業スタイルの実践に取り組んだ。 ※「課題設定」「学び合い」「まとめ・振り返り」	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	
	② 家庭学習					○各教科とも課題を吟味し、授業と連動した予習・復習の家庭学習を進めるよう心がけた。 ○家庭学習への取り組みや提出率は確実に向上し、成果も表れてきている。 ○生徒一人ひとりに適した学習方法を模索したり、学習計画の立て方についても吟味したりすることができた。 ●自主性は定着しつつあるが、受動的な部分や意欲の向上を図るための手立てが必要である。
	4 帰りの短学活の家庭学習計画づくりの指導、教科の家庭学習指導に十分に取組んだ。	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	
5 授業と連動した家庭学習課題(宿題)の提示に取り組んだ。	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%		
6 宿題以外の自主学習にも進んで取組もうとする生徒の育成に取り組んだ。	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%		
B 豊かな人間性	③ 自己肯定感					○生徒がお互いの話を聞いたり、認めたりする活動を増やしたことで、自分だけでなく他者に目を向け、尊重しようとする姿勢が現れるようになった。 ●発達段階に応じ、実態を把握した上で、場面にふさわしい言動ができる生徒の育成を目指したい。
	7 自分の長所や良さを伸ばそうとし、友達の良さを見つけようとする生徒の育成に取り組んだ。	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	
	8 「いいとこみつけ」などの活動を通して、自分には良いところがあると思える生徒の育成に努めた。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	④ 自治活動					○行事については縮小したり変更したりしながら、適切に指導助言を行い、一体となって活動できた。 ○●時間の観念については良好になってきているが、あいさつについては、今後も継続的に指導する必要がある。範となる態度や意識を目指す雰囲気醸成する。 ●生徒自身が主体性を持って活動に向かうよう、教師側の関わり方も検討が必要である。
9 学校行事や学級活動を通し、集団の一員として、目標に向かって主体的に活動する生徒の育成に取り組んだ。	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%		
10 小中合同のテーマである「あいさつ」や「時間」の活動に主体的に取り組もうとする生徒の育成に取り組んだ	37.5%	25.0%	25.0%	12.5%		

B 豊かな人間性	⑤感謝と 思いやり	11 周りのことを考え、行動しようとする生徒の育成に努めた。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	○発達段階によってそれぞれ抱える悩みや問題点に対する相談、解決策等について教育相談・道徳教育を中心に対応できた。また関係機関との連携についても適切に行うことができた。 ○教職員間の情報共有を密にして、チームとして指導に当たることができている。 ●生徒の観察を継続すること、家庭との連携を図りながら即時的な指導に取り組むことを継続する。
		12 道徳で学んだことを日常の集団生活の中で生かそうとして生活する生徒の育成に取り組んだ。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	
		13 日常の生徒観察やいじめアンケート・教育相談を通じ、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に努めた。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	⑥キャリア学習	14 進路学習や総合的な学習の時間の学習等を通して、将来の生き方について考えさせる学習に取り組ませた。	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	
		15 将来の夢や就きたい仕事など具体的な目標を考えさせる学習活動に取り組んだ。	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	

C 心身の健康	⑦基本的 生活習慣	16 冊子「確かな自律のために」をもとに、生活のきまりの指導を行い、落ち着いた学校生活を送れる生徒の育成に努めた。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	○学習態度・生活態度の点検活動や短学活等での継続した指導により、基本的な生活習慣は定着していると考えられる。 ●家庭での生活や治療勧告については家庭との連携が必要であるが、各家庭に任せきりになってしまったので、面談や文書等でさらに連携を深めたい。 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により通院を控えた家庭が多くなった	
		17 機をとらえながら、「早寝、早起き」の生活習慣の指導を行った(始業式、部活動延長、テスト期間中、期末面談、長期休業前)。	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%		
		18 治療勧告書の配布された生徒に対し、疾病の早期治療を促す指導に努めた。	25.0%	12.5%	62.5%	0.0%		
	⑧体力向上	19 新体カテストの結果分析から、中学部全体の課題点の理解に努めた。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%		
		20 体育の授業(吉里っ子サーキットを含む)、部活動、合同トレーニングを通して、課題点を克服するための指導に努めた。	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%		
	⑨教育相談	21 心のサポートの視点を持ち、日常の生徒観察・生徒理解に努め、組織的・計画的に教育相談活動に取り組んだ。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%		
		22 生活アンケートをもとにした学期末の教育相談活動を計画的に実施し、生徒理解に努めた。	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%		
	⑩情報モラル	23 情報モラル教室により、ゲームや携帯端末の使い方について危機管理が必要だという意識を育てることができた。	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%		○●外部人材を活用した講話は良いが、生徒の実態に合った内容については検討が必要である。 ●情報モラルについては、生徒向けと保護者向けに分けて学ぶ機会を設定していきたい。また、各家庭の協力と理解を深めていきたい。

D 郷土愛	⑪郷土 芸能等	24 ふるさと科の学習(郷土芸能伝承活動・ワカメ体験学習など)で、地域の良さを生かすことができる生徒の育成に取り組んだ。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	○全校で虎舞に取り組んだことは成果であった。9年生がリーダーシップを発揮してくれた。 ○地域や小学部とのつながりも構築できた。今後も連携を深めながら、地域貢献する姿勢を育成する。
		25 ふるさと科の学習(郷土芸能伝承活動・ワカメ体験学習など)で、地域のために貢献しようとする生徒の育成に取り組んだ。	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	
	⑫防災	26 避難訓練や防災週間などの防災学習で、危機意識を持ち、防災の知識を身につけようとする生徒の育成に取り組んだ。	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	
		27 避難訓練や防災週間などの防災学習で、主体的に判断し、行動できる生徒の育成に取り組んだ。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	